

～新しい教育活動の適正な実施～



# 恩方中だより

ホームページ <http://hachioji-school.ed.jp/ongtj/>

八王子市立恩方中学校  
令和8年3月19日発行  
第11号  
校長 植田 恭正



## 一年の結びにあたって

寒さの中にもやわらかな春の気配が感じられる頃となり、本年度もいよいよ終わりの時期を迎えました。校庭の木々や花々が新しい季節の訪れを告げる中、生徒たちもまた、この一年の歩みを胸に次の段階へと進もうとしています。

今年度は、本校にとって大きな節目の年となりました。学校行事のあり方を見つめ直し、いくつかの重要な行事において新たな取り組みを進めてまいりました。長年続いてきた形を見直すことは決して容易なことではなく、多くの方々の理解と協力がなければ実現することはできませんでした。生徒、保護者の皆様、地域の皆様、そして教職員がそれぞれの立場から支えてくださったおかげで、これらの改革を無事に進めることができましたことに、心より感謝申し上げます。

特に印象深い行事の一つが、北海道で実施した修学旅行です。広大な自然と豊かな文化に触れる中で、生徒たちは多くの学びと経験を得ることができました。仲間とともに過ごした時間は、生徒たちの心に深く刻まれたことでしょう。互いに助け合い、声を掛け合いながら活動する姿からは、大きな成長と確かな絆を感じることができました。

また、地域の皆様とともに実施した運動会も、本校の新しい歩みを象徴する行事となりました。地域の方々に見守られながら、生徒たちは力いっぱい競技に取り組み、仲間を励まし合う姿を見せてくれました。学校が地域とともに歩む存在であることを改めて実感する、温かなひとときであったと感じております。

さらに三月に行われた合唱祭では、生徒たちの努力と団結が美しい響きとなって会場に広がりました。どのクラスも真剣に練習に取り組み、心を一つにして歌い上げる姿には、大きな感動がありました。一つの目標に向かって仲間と力を合わせる経験は、生徒たちの心を確実に豊かにしてくれたことと思います。



この一年を振り返りますと、私はさまざまな場面で本校の生徒たちの優しさに触れることができました。困っている友達にさりげなく手を差し伸べる姿、学校生活の中で互いを思いやる姿、そして日々の活動の中で真摯に努力を重ねる姿など、生徒たちの温かな心が感じられる瞬間が数多くありました。こうした姿に接するたびに、本校の生徒たちの成長を心から嬉しく思うとともに、大きな誇りを感じております。

もちろん、この一年の歩みの中には、さまざまな出来事がありました。学校生活は決して平坦なものではありません。喜びもあれば、悩みや迷いを感じることもあります。しかし、生徒たちは仲間や先生と支え合いながら、その一つ一つを乗り越えてきました。その積み重ねが、学校全体に穏やかで温かな雰囲気を生み出してくれたのだと感じております。



また、本校の教育活動は、学校だけで成り立つものではありません。学校運営協議会の皆様には、学校運営に対する貴重なご意見やご助言をいただき、PTAの皆様には日頃より多くのご理解とご協力を賜りました。地域・家庭・学校が力を合わせて子どもたちを育てていくことの大切さを、改めて深く感じた一年でもありました。ここに改めて深く御礼申し上げます。

生徒たちは、この一年で確かな成長を遂げました。それぞれが経験した学びや思い出は、これからの人生を支える大切な財産となることでしょう。これからも自分自身を大切に、仲間とのつながりを大切にしながら、未来へ向かって力強く歩いてほしいと願っています。

結びに、保護者の皆様、地域の皆様、そして本校の教育活動を支えてくださったすべての方々に、改めて心より感謝申し上げます。皆様の温かな支えのもとで、生徒たちは安心して学び、成長することができました。

来年度も、生徒一人一人の可能性を大切にしながら、よりよい学校づくりに努めてまいります。今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

校長 植田 恭正

## 生徒たちの活躍の記録

### 小学6年生向け体験授業を行いました！



恩方中学校区の小学校3校（恩方第一、第二、元木）を対象に小学6年生向け体験授業を2月25日（水）に実施しました。この授業は恩方中学校が主催し、中学校入学に向けた準備の一環として中学校の授業を体験してもらうもので、教科担任制で行う中学校の授業を理解することが狙いの一つです。小学生たちは、各クラスで真剣に授業に取り組んでおり、笑顔があふれ授業となっていました。

### 学運協主催の放課後基礎教室も入試・学年末テスト直前で連日開講！



2月度の放課後基礎教室は、都立高一般入試と、学年末テストの直前ということで、多くの生徒が参加しました。先生方の質問教室に参加した後に、放課後基礎に来た生徒も何人かいましたが、みんな各々自分に合った勉強をしていました。学校運営協議会のみなさんも、入試・学年末テスト直前ということで力を入れてくださっています。今年一年、本当にありがとうございました。

### ヒロミさんに磨いてもらった調理室で餃子づくり！



10月に放送された「相葉ヒロミのお困りですカー」で、家庭科の関先生のお困りごとが紹介されていました。それは、調理室が古くてシンクなども汚れていてなかなか調理実習を行うのにも困っているとの相談でした。この内容を受けて八王子が生んだ大スターであるヒロミさんが、コンパウンドを使ったシンク掃除をしてくれました。そのおかげもあって、今回、

めでたく調理実習を行い餃子づくりを2年・3年ともに行いました。中学校の家庭科調理実習は、包丁の基本的な使い方、ご飯の炊飯、味噌汁、ハンバーグ、魚の塩焼きなどの基本調理を学び、食の自立と衛生管理（手洗い、消毒、生ゴミ処理）を習得する場です。家庭でもできる内容ですが、学校ではグループで取り組むことで協働学習や課題探究を行うことが可能です。生徒たちはお互いに協力し合いながら男女隔てなく、餃子づくりに勤しみ、出来上がった餃子を美味しく食べていました。改めてテレビ朝日のスタッフならびに八王子が生んだ大スターであるヒロミさん、国民的大スターである嵐の相葉くんに感謝申し上げます。

## 令和7年度中学三年生の進路



3年生が無事全員の高校受験合格と就職などの進路を決定しました。

令和8年度高校入試の推薦入試においては都立・私立とも7割台と依然高い合格実績をあげることができました。

推薦の詳細はホームページも詳しく解説を載せていますのでご覧ください。

私立推薦入試につきましては、受験者全員が合格という結果となりました。私立推薦は、当日の試験だけではなく、「3年間の学習の積み重ね」「通知表の評定」「生徒会活動や部活動、クラブチームへの取組」「生活態度や出席状況」などが総合的に

評価されます。本校生徒は、日常の努力を誠実に積み重ねてきたことが評価され、私立推薦合格率100%という成果につながりました。

都立推薦入試は、「調査書（内申）」「面接・作文」によって合否が決まる、極めて厳しい入試です。しかも、各校の倍率によって難易度は異なります。今年度、本校生徒が受験した学校の倍率は2倍台が中心で、3倍前後の学校もありました。これは「2人に1人以上が不合格」「3人に1人しか合格できない」状況であったことを意味します。その中での本校の結果は、合格者17名／受験者31名合格率 約55%という結果でした。高倍率校への挑戦が多い中で、他校と比較しても健闘した結果であると考えております。

今年度の推薦入試全体では、私立推薦合格者 16名都立推薦合格者 17名合格者合計 33名推薦受験者総数は47名となり、推薦入試全体の合格率は 約70%（33名／47名）という結果となりました。高倍率校への挑戦が多かったことを踏まえると、全体として前向きな成果であり市内屈指の合格率であると自負しております。

高校受験は3年間の積み重ねが重視され、学校生活での取り組みが極めて大切な試験です。しかし、挑戦する過程で得た経験は、生徒にとって大きな財産です。今後も本校は生徒の希望を第一に最後の一人まで全力で進路選択の支援してまいります。

## はちっこキッチン元八王子の栄養士の方々による 1 年生食育指導がありました！



学校給食の大切な目的の一つが食育指導にあります。バランスのよい栄養を摂ることで健やかな身体が育成されます。そのためには頭でもその仕組みを理解し積極的にバランスの良い食生活を送ることが大切です。今はご家庭で保護者の方々が栄養バランスを考えた食事を提供していますが、社会に出て大人になると自分自身の栄養管理が大切です。八王子市ではすべての小・中学校で学校給食が導入されていますので、その献立に携わる栄養士の方々から様々な学びを得てもらいたいと思います。

## 全校で獣害対策避難訓練を実施しました！



本校の安全リスクは、「自然災害」「地震」「火災」「不審者」「獣害」を5大リスクと考えて、安全指導を通年で行っています。特に今年はいつになく、野生動物が学校周辺に出るケースが多く対策を考えさせられる場面が多かったかと思います。2月度の避難訓練は、イノシシなどの発情期を迎え、今後、獣害への関心とリスクを考えるために、猿の校舎内侵入を想定した訓練を行いました。教員が猿役を行い、生徒を教室で退避させ「騒がず」「刺激せず」「速やかに」を合言葉に行動を行い、猿を山に戻すことを行う訓練です。猿への対応は教員が行い、市獣害対策課から支給された爆竹類を使用して、透明なコンパネを使用して山に誘導を行う訓練となります。以前に獣害対策を専門に行う EGO からの指導を元に、猿役の小林先生が迫真の演技で先生との本番を想定した取り組みを確認しました。終了後の副校長講評でも、本来は野生動物と人間が住むテリトリーは異なり、お互いが共生をしていた



が、里山を取り巻く環境の変化で野生動物が人間のテリトリーに侵入したことにより獣害という問題が生じたことを念頭に、私たちがすべきことや安全確保の重要性を考えるように指導がありました。

### 3年生福祉体験



恩方地区は高齢者福祉施設や障害者支援施設などが点在する地域で、保護者の中でもこうした施設で働かれている方々が数多くおります。また急速に進む高齢化の中で、介護の問題は避けて通れません。そこで、恩方中学校では卒業を前に義務教育を終える3年生にこうした問題を課題として考える機会として福祉体験授業をはちまるサポート恩方の皆様にご協力いただき実施しております。今年も3年生が元気いっぱい体験をしてきましたので、その様子をご紹介します。※入所者様の顔が識別できないように加工を行っております。ご了承ください。（協力施設）

- 恩方育成園（障害者支援施設）
- 恩方ホーム（特別養護老人ホーム）
- 山水園（特別養護老人ホーム）
- ハートランド・ぐらんぱぐらんま（介護老人保健施設）



### 中学1年生の思い出のシュプール



一年生の皆さん、いよいよ今日から二泊三日

のスキー移動教室が始まります。行き先は長野県・黒姫高原スキー場です。広大な雪景色の中で

仲間と過ごす三日間は、教室では学ぶことのできない多くの経験をもたらしてくれるはずです。初めてスキーに挑戦する人もいるでしょう。不安もあるかもしれませんが、しかし、転びながらも何度も立ち上がることで、必ず滑れるようになります。それはスキーだけでなく、これからの学校生活にも通じる大切な学びです。今回の目標は「安全」「協力」「挑戦」です。仲間と声を掛け合い、時間や約束を守り、感謝の気持ちを忘れずに行動してください。ホテルの方やインストラクターの先生方への挨拶も大切な学びの一つです。恩方中学校の代表としての自覚をもち、一人一人が成長できる三日間にしていきましょう。笑顔で出発し、笑顔で帰ってくることを願っています。 行ってらっしゃい。



## 令和7年度合唱祭 天歌夢奏～響かせよう 恩中音色～



恩方中学校では、J:COM ホール八王子で開催する合唱祭に向けて、全校生徒を対象に事前指導を行いました。合唱祭当日の流れや集合・移動の方法、持ち物の確認に加え、公共ホールを利用する際のマナーや心構えについて改めて確認しました。ホールでの鑑賞態度やゴミの持ち帰りなど、社会の一員としての振る舞いを意識すること、そして舞台に立つ発表者として、身だしなみや礼儀を整えることの大切さを全員で共有しました。今年の合唱祭のスローガンは「天歌夢奏 ～響かせよう 恩中音色～」です。これまで各クラスで積み重ねてきた練習には、仲間と声を合わせようとする努力や、よりよい合唱をつくろうとする思いが詰まっています。特に3年生にとっては、中学校生活最後の合唱祭となります。一人一人の声が重なり合い、クラスの思いが一つになったとき、きっとホールいっぱいに恩方中学校ならではの美しいハーモニーが響き渡ることでしょう。

## 【東日本大震災 15 周年記念特集】あの日を知らない世代へ



2011年3月11日、午後2時46分。東北地方の三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震が発生しました。日本の観測史上最大の地震です。激しい揺れのあと、東北地方の太平洋沿岸には巨大な津波が押し寄せました。高さ10メートルを超える津波が町へと流れ込み、家や車、そして人々の暮らしをのみ込みながら内陸へと進んでいきました。多くの町が壊滅的な被害を受け、尊い命が失われました。

2026年、震災から15年が経ちました。

今年卒業する3年生は震災当時に生まれた子どもたちです。皆さんにとって東日本大震災は「歴史の出来事」のように感じるかもしれませんが、しかし、この震災は決して遠い出来事ではありません。

実際にその場にいた人たちの体験には、私たちが未来の命を守るために学ぶべき大切な教訓が残されています。



宮城県石巻市も、その大きな被害を受けた町の一つです。

津波のあと、石巻市にある石巻赤十字病院には、けがをした人や避難してきた人たちが次々と運び込まれてきました。医師や看護師、助産師たちは休む間もなく働き続け、多くの命を救うために必死の医療活動を続けていました。

そのような混乱の中で、一つの新しい命が誕生しました。その赤ちゃんの名前は、加藤俊介（仮名）くんです。



俊介くんは、震災の翌日である3月12日、石巻赤十字病院で生まれました。町は津波によって大きな被害を受け、多くの人々が悲しみと不安の中にいました。病院の外では、多くの人々が家族の安否を探し、避難生活が始まろうとしていました。

しかし、病院の中では、新しい命が誕生しようとしていました。

医療スタッフは、どんな状況でも命を守るという使命のもと、出産を

支えました。そして赤ちゃんは、元気な産声をあげてこの世界に生まれてきました。

その泣き声を聞いたとき、周りにいた人たちの表情が少しでも明るくなったといいます。

助産師の一人は後にこう語っています。

「震災でたくさんの悲しい出来事がありました。でも、赤ちゃんの泣き声を聞いたとき、未来は必ず続いていくと感じました。」

震災の混乱の中で生まれた小さな命は、多くの人に希望を与えました。町は大きな悲しみに包まれていましたが、その赤ちゃんの誕生は、「それでも未来は続いていく」ということを感じさせてくれました。

震災から15年が経ちました。俊介くんは、今では皆さんと同じ中学生になる世代へと成長しています。

震災のときに生まれた子どもたちは、「震災の子どもたち」あるいは「復興の世代」と呼ばれることもあります。多くの人に見守られながら育ち、地域の未来を担う存在として大切にされてきました。

東日本大震災は、私たちに自然災害の恐ろしさを教えてくれました。しかし同時に、人と人が支え合い、助け合うことの大切さも教えてくれました。



ホームページには4回にわたり、当時の震災の記憶を途切れさせないために特集を組みました。

第1回で紹介した、中学生の時に被災し、その後、小学校教員になった山田夏未（仮名）さんの体験からは、「自分の命を守る行動」の大切さを学びました。

第2回で紹介した釜石の子どもたちの行動からは、「自分で判断し、

勇気をもって逃げること」の大切さを学びました。

そして第3回に加藤俊介（仮名）くんの誕生は、「命は未来へつながっていく」ということを教えてくれます。※第4回は震災後の東京の様子を特集しました。

震災の記憶は、時間がたつにつれて少しずつ遠くなっていきます。しかし、その教訓は決して忘れてはいけません。

皆さん一人一人の命は、とても大切な命です。

その命は、家族や友達、そして多くの人のおいによって支えられています。

東日本大震災の教訓を忘れず、命を大切にすること。

そして、自分の命も、周りの人の命も守る行動を考えること。

それが、震災を経験していない世代である私たちが未来へつないでいく大切な役割なのだと思います。

震災から15年。

私たちはこれからも、あの日の出来事を忘れず、命の大切さを学び続けていきたいと思っています。

今回ご紹介した話はすべて実話です。本来であれば実名でご紹介したかったのですが、許諾をいただく時間がありませんでしたので仮名とさせていただきます。多くのマスコミでも紹介されている内容なので、もしどこかでご覧になったらこのことだったのだとご判断ください。

東日本大震災により、かけがえのない多くの命が失われました。ここに、亡くなられたすべての方々に深い哀悼の意を表するとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。私たちは震災の記憶と教訓を決して忘れることなく、命の尊さを胸に刻みながら未来へとつないでまいります。震災で亡くなられた方々への敬意と鎮魂の思いを込め、静かに黙祷を捧げます。

令和8年3月11日副校長 早川功